

西原町 フットパス ガイド ウォーク& ドライブ

「産業のまち」西原町

沖縄本島中部に位置する西原町は、琉球王国時代は首里王府の直轄地で、第二尚氏王統始祖・尚円王由来の地でもあります。現在、西原町は多くの企業が立地する「産業のまち」であり、2つの大学がある「文教のまち」としても知られています。

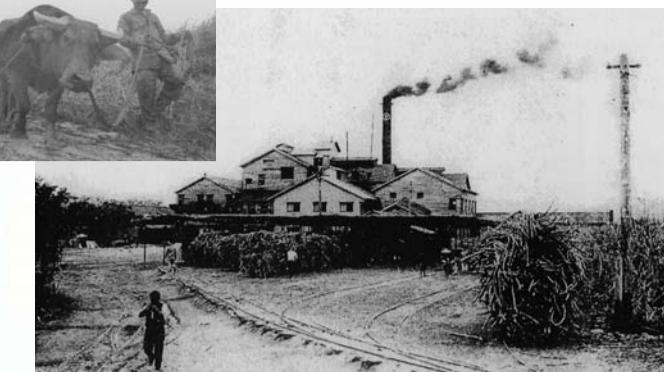
見る、ふれあう、体験する、楽しむ。

西原を歩こう

西原町は、県都那覇市の北東10kmに位置し、総面積15.84平方キロの隋円形の形をしており、人口は35,317人(H25.11現在)と伸び続けています。

産業のまち

水牛によるサトウキビの運搬
(時期不明)



1932年頃の製糖工場



製糖工場の煙突からの煙(1973年)



製糖工場の大型クレーン(1969年)



2本の煙突がある建物が製糖工場(1968年)



南西石油(1968年)



原油を荷上げするタンカー



【お問い合わせ】西原町商工会

沖縄県西原町字小橋川1番地5 TEL098-945-6136

西原の歴史

西原の名称は、琉球王府のある首里の北(方言でニシという)にある地方から由来しています。琉球王国時代、当時の西原間切は首里王府の直轄領となっており、その領域は、北は津堅島(現うるま市)西は石嶺、末吉、天久、泊(現那覇市)まで及ぶ大きな行政圏を構成していました。明治41年(1908年)の特別町村制の施行に伴い西原村となり、大正9年には、ほぼ現在の領域になりました。

昭和20年(1945年)の沖縄戦では、米軍が上陸した読谷村の海岸から司令部のあった首里へ進軍する通り道となり、西原は激戦地帯となりました。住民の約半数が戦争の犠牲者(約5,000名)となり、全世帯のおよそ四分の一が一家全滅するという深い傷を残しました。

戦後は製糖工場が建設され、純農村として、さとうきび産業が基幹産業を担いましたが、昭和40年(1965年)初期から沿岸部を中心にして企業集積が進み、復興・発展を遂げました。現在では、県内随一の製造品出実績を誇るまでとなっています。

また、昭和54年(1979年)に国立琉球大学、平成元年に沖縄キリスト教学院大学が西原町に移転し、若者の活気に満ちた「文教のまち」として知られています。

近年では、中城湾港マリンタウンプロジェクトにより、住宅建設・商業地建設・公園整備等が進められ、平成19年(2007年)には西原マリンパークがオープンし、砂浜が550mに及ぶ「西原きらきらビーチ」がオープンし、マリンレジャーやビーチパーティーができるようになり、現在では年間50万余の人々が集う場となっております。



農協商店(1963年)



東京オリンピック聖火リレー(1964年)



西原劇場(1963年)



内間御殿(1963年)



田園風景(1963年)



村役場(1970年)



西原村役場(1963年)



西原温泉(1970年)



沖縄キリスト教学院大学



琉球大学

わが町の世界ー！西原高校マーチングバンド部

4年に1度、オランダのケルクレーベで開かれる「世界音楽コンテスト」で、西原高校のマーチングバンド部は1997年以来、5回連続で金賞を獲得しています。世界トップレベルの実力を維持しつづけている高校生の活躍は、町民に感動と誇り、希望を与えてくれています。



バレーボールのまち

西原町はバレーボールが盛んで、小学生から中学、高校、一般まで多くの人がバレーボールに親しみ、県内外の大会でトップレベルの成績を挙げています。これを受けて2005年12月には「バレーボールのまち西原」を宣言しました。



西原きらきらビーチ